

令和6年12月4日

上尾市議会議長 田中 一崇 様

議会報編集委員会
委員長 小池 佑弥

議会報編集委員会の行政視察を行ったところ、その概要は下記のとおりでありますので、報告いたします。

記

- 1 日 時 令和6年11月19日(火)
- 2 視 察 地 埼玉県比企郡小川町
- 3 視察内容 議会広報について
- 4 参加委員 小池 佑弥 稲村久美子 黒須喜美雄 田島 純
篠原 文子 島津 秋男 井上 淳子 荒川 昌佑
- 5 随 行 議事調査課主任 杉崎 達宏
議事調査課主任 和田 一駿

埼玉県比企郡小川町

- 1 調査項目 議会広報について
- 2 調査期日 令和6年11月19日(火) 午前10時～11時30分
- 3 市の概要 人口：27,774人(令和6年4月1日現在)
行政面積：60.36km²
令和6年度一般会計当初予算額：99.1億円

4 調査の目的

小川町議会では、平成28年に議会だよりの紙面リニューアルを行っている。見やすさ・読みやすさや住民の声に重点を置くなど“6つの約束”を編集方針に掲げたこの取組により、全国町村議会議長会主催の全国コンクールにおいて多数の表彰実績を重ねている。

本市においては、二次元コードの掲載や見やすさの改善などを重ね、より多くの住民の目にとめていただけるよう随時改良に取り組んでいるものの、掲載内容の固定化や読者層の固定化などに課題を抱えている。

小川町議会の先進的な取組の手法を学ぶことにより、本市の議会だより編集にその知見を生かしていくことを目的とする。

5 調査の内容(事前質問への回答)

● 議会だよりリニューアルに至った背景とリニューアルのポイント

⇒79号でガラリとフルモデルチェンジを行った。

リニューアルの前年に一般選挙があり、その時期に編集・印刷を委託している会議録センターの担当者とやりとりをする中で、そろそろ紙面のリニューアルをしようかという話を進めていた。

改選後に委員長となり、どういった紙面のデザインにするか、見た目だけでなくどのように工夫していくかというところを、委員にアンケートを通して、2定例会号の編集発行を担いつつ、半年ほどかけて説明した。

当時の委員は30代から80代まで、副委員長には女性もおり、バランスのとれた委員構成が図られたという点が紙面のリニューアルデザインを選んだ大きなポイントだったと思う。

各委員の意見を取り込んだデザインが業者から3案ほど示され、1人2票ずつ投票を行った結果、満票だったのが今のデザインである。なお、投票には当時の事務局職員も含めて行った。子育て世代真っ只中の職員で、どれを選ぶか注目していた。これまで手にとって読んでいただけている読者層はやはり高齢世代だという印象を持っていて、今まで手に取ったことがない方たちにどうPRしていくかというところが大きなポイントであった。まずは手に

取っていただかないと読んでもらえないので、どうやって手に取っていただくかというところに焦点を当て、今回のデザインを採用した。これまで読んでいた方が、このデザインに変えて読まなくなるということはほとんどないと思う。

「挑戦」ではなく「冒険」の域で、当時は批判の声もいただいた。「おがわぎかい」というタイトルを平仮名表記にしたところ、馴染みやすいという声も多くいただいた一方で、議会というのにはそんなに軽いところなのかとの声も多少いただいたが、今まで読んだことない方たちにとっては非常に身近なデザインになったものと自負はしている。結果的に町村議長会主催のコンクールで入選したので、批判されていた方たちに対しても胸を張ってリニューアルしてよかったと言えるようなものができたと考えている。

リニューアル後、かれこれ30号ほど発行しているので、個人的にはもうそろそろまた変えてもいいかなと思っている。この間も、デザインはそう大きく変わっていないが、中身の部分は毎号少しずつ新しいことにチャレンジしつつ、1人でも多くの読者を捕まえるような仕掛け、戦略的なものに取り組んでいる。

議会だよりの充実は、議会の充実なくして成り立たない。そういうものがついてくれば、おのずと議会だよりの充実というのは図られてくると感じている。

- リニューアルに関する議会決議の流れ

⇒議会広報編集特別委員会がしっかりとした議論の上で提案をしているので、議会として特別に決議等を行ったものではない。水面下では各議員からいろんな意見も出るが、大体「議長から付託されています」と押し切っている。ただし、説明しないわけではなく、最初の段階からかなりしっかりとした組み立てをしているので、混乱は特別に起こっていない。

- 効果検証はどのように行っているか

⇒アンケートを取るとか、調査をするとか、特別にそういうことはしていない。ただ、住民参加、それから住民に登場していただくことがこの議会報作りの骨子になっている。議会報をどう見ているか、議会報にどう登場してもらおうかというのを住民に説明しながら、住民の方が登場する場や機会が多くなっている。そうした機会を通じて意見を聞いたり、こういう思いがあるので意見を寄せていただけないかとか、そういう形での評価や意見は、日常的に委員それぞれがいただいている。

- 議会だよりリニューアルに際し予算や業者の変更があったか、業者変更があった場合、議会広報委員会としてどのように進めたか

⇒業者は変わっていない。むしろ、お互いにいろいろな提案を出し合ったり文

句を言ったり、もっとこうしてくれという要望、業者からはこういうことが全国で始まっている等のサジェスションがあったりと、更に練り上げつつあるというのが現状である。

編集会議では、会議録センターの担当者も出席し、議員が作成した原稿を基に作り込んだものをモニターに表示し、レイアウトや見出し、ここはこういうイメージでという指示をその場で行い、その場でPCで編集を行う。

- 議員インタビューの運用方法

⇒リニューアル以前にも、取材型の企画として議員が取材してくるということはあるが、リニューアルを機に、「議員の**聴**く・繋ぐ」というコーナー等を作った。16人の議員がいるということで、「聴く」という字に「十六」という字をもじって「**聴**く」という形になった。

簡単なアンケートを議員にお願いする場合、事前にその趣旨等をお話する。編集委員会当日はそれらをたたき台にしたり、掘り下げたりしながら、どうしても紙面が限られるので、場合によっては、こちらの意図とそのご本人の内容をかみ合わせるような多少の編集は行っている。

- シリーズコンテンツの選定理由や運用方法

⇒直近では、令和5年9月の改選以降の議会活動の全容を「16人の一歩！！進み続ける議会」としてシリーズ化した。

改選後、高橋議長の下、毎月の意見交換会や委員の懇談会を始め、議会改革の取組が進んでいる。そこでの提案として今度は住民意見交換会の実施、さらには定数の問題と着実に自由な意見交換会の上に、いろんな議会改革が一步一步進みつつある。それらをしっかりとこの広報の中で表現していく。

それと同時に、各委員会が活発に動き出した。今度も給食の試食や道の駅の見学、都市計画政策、予算・決算の学習会とか、非常にこのところそれぞれの委員会が独自に様々なやりとりをはじめ、そこに他の議員も参加していいという形になっている。

そうした議場では見えない、個々の議員だけでは見えない、議会全体としてどういう動きをしますよ、みんながこういうことをやろうとしていますよというのを表現するページとして、この「16人の一歩」という記事を毎号掲載している。

小川町議会では、議会基本条例が未制定である。令和7年1月に議会主催で地区懇談会がようやく決定したという段階で、そうした点では多くの議会に遅れをとっているかもしれないが、この議会報が大事な役割を果たしているという思いで、編集を進めている。

- HPと議会だよりの連動など工夫している点や効果について

⇒二次元バーコードについては、議会の内容だけではなく、語句とか国の政策、

国の政策に基づいて町がどのようにやっていこうとしているかという町のページ、それから専門的なページ、そうしたものになるべくつながるように、積極的に見つけて掲載するようにしている。具体的には、町ホームページ内の議会会議録、議案審議、議会に関する部分、各種計画書、町のホームページの関連ページにつなげるように取り組んでいる。

※詳細は別添資料を参照。

6 主な質疑応答

問 表紙やインタビューで子どもが多く登場している。これは意識して行っているのか。

答 特別に子どもを載せようと議論しているわけではないが、表紙の写真は、各委員が2枚ずつ提出し、編集委員会で全部並べ、そして事務局も含めて投票して表紙を決めている。そうすると子どもの写真は投票が高くなる傾向にある。また、ココットという子育て支援施設をつくるなど、子育て施策が町の中核になっている。そうすると議会での審議も多くなり、それに関連した写真は必ず入れると決めているため、子どもの登場が多くなっている。孫が出たと言うと親や祖父母、隣近所などが議会報を読んでもくれる。掲載の許可取りでは、学校の協力をいただきながら、委員が苦勞している部分もある。

問 議員全員が登場する写真も多いが、経緯は。

答 議会改革だとか、議員全員で決めたもの、全員賛成で今後の町にとっても重要な内容になった場合には、議会はこういう思いでこれは決めたんだというような強い内容が結構時代的に増えている。そうした場合には、議会の顔を出した方が住民にとっても、分かってもらえるのではないかという意識も編集委員会のときには働いている。

問 欄外にさまざまな世代からのコメントが掲載されているが、どのようにインタビューしているのか。

答 取材に行って、写真まで撮るのはハードルが高いため、イラストを使用している。お好みのイラストを選んで、インタビューは要約して載せている。取材した方には議長名の礼状と合わせて2、3部お届けするなど、読者を獲得する戦略のひとつとしている。

問 編集会議の所要時間は。

答 午前9時からやって、午後5時に終わればよし。各議員から提出された一般質問の原稿のチェックによるところもある。全体のテーマ、質疑、内容、これらが一致して明確になっている原稿にさせていただくようお願いしているが、例えばテーマと質問が全然違っている原稿があると、会議時間も長く

なる。あとは、特集ページが大きな勝負になるため、特集に関して議論が非常に活発になる。

問 特集ページの題材は、どのように決めているか。

答 選択肢を出して、委員会で決めている。単純な解説をするような内容になりがちだが、議会としての姿勢が見えるようにしている。議会前に執行部から議案説明があり、その翌日が1回目の編集会議になるため、そこで特集ページはほぼ決められる。結論とか、ある一定の情報ではなく、これから進行していく中で、議会は住民の皆さんとこういう点をしっかり考えていきたい、という思いも込めている。

問 手に取ってみると、若者も読んでみたくなるような色づかいになっているが、工夫している点は。

答 実は和紙で作りたいかったが、コストや印刷技術面で難しかったため、画像を取り込んで和紙風の下地にしている。議員が染めた和紙の中から季節ごとに選定している。表紙の色に合わせて、中の基本的な印刷の色を毎回決めている。その趣旨を各ページの隅に表示している。

問 編集会議で意見が割れることはあるか。

答 しょっちゅうある。多数決ではなく、最終的には全員が納得した内容にする。削る作業が難しい。一般質問記事で個人の方と対立することもあるが、その場合には、これは申し訳ないがあなた個人の議会報として出してください、これは議会の姿勢、思いを伝える議会報です、とお願いしたこともある。

問 平成28年のリニューアル前から、編集方法は変わっていないか。

答 従来から、編集会議で編集を行っている。そうした土台はあり、我々は少しエッセンスを加えたというぐらいである。

問 リニューアルに向けてのポイントは。

答 現在の高橋議長の下、ようやく議会改革が進み始めたが、コロナ禍もありなかなか進まなかった。そうした中、議会報だけでも活性化させてしまおうというのが実はリニューアルの要素としてあった。議会だよりから、本丸の議会に持っていこうという戦略的なものが、当時の委員の中ではあった。隣の寄居町議会も、そのようにして議会改革を達成している。昨年度のコンクールに入選した議会は、全て改革活性化がなされており、それが紙面に表れていた。併せて、住民と共にある紙面構成作りというのが審査の2大テーマになっている。

【小川町出席者】

議長 高橋 功人 氏

議会広報発行特別委員会委員長 山口 勝士 氏

// 副委員長 鈴木 秀尚 氏

// 委員 高瀬 勉 氏

// 関根 慶則 氏

// 岡部 久志 氏

// 田端 良成 氏

議会議務局長 岸澤 均 氏（司会進行）

議会議務局次長 丸山 雅子 氏



小川町・高橋議長より歓迎のご挨拶



小池委員長



視察研修の様子



視察研修の様子



稲村副委員長



小川町議会議場にて